

2020年入社内定者アンケート

Q.河北新報社を知ったきっかけ

- 家族が購読しており、小さい頃から身近な存在だった。
- ボランティアで宮城県を訪れた際、宿で読んだ新聞が河北新報だったこと。
- 隣県にある新聞社として、小さい頃からなんとなく存在は知っていた。東日本大震災の被災地報道でよく目にするようになった。
- 中学生の時に職場体験で河北新報を訪れ、新聞が作られるまでの流れや販売局員の方の話を聞き、より一層河北新報に興味を持った。
- 中学2年生の時に河北NIEの指定校になったことがきっかけ。大学生になってからは仙山カレッジに参加したり、若手社員の方と河北ウィークリーの特集を組んだり、新聞モニターに3ヶ月間参加したりと、何かと関わる機会が多かったから。

Q. 受けた理由、動機

- 自分なりに東日本大震災の復興に貢献できる職業であり、企業であると思ったから。全国的に震災の風化が進行するなか、新聞記者は現場の当事者として自分の見たこと・感じたことを発信し、共有する力をもつ点に魅力を感じた。
- 解禁直前の2月にインターンシップに参加し、河北新報社の報道に対する姿勢、地域に対する思いに魅せられたから。
- 大好きな地元・東北のためになる仕事、文章を書く仕事があったから。
- WEBマガジンの学生記者を経験したことで、文章を通して情報発信することに魅力を感じ、新聞社を受けた。中でも、河北新報は東北に根付いた新聞社であるため、震災報道や東北の発展に貢献できる仕事ができると思い希望した。
- 22年間住み続けてきた東北が大好きだったから。地元に着した内容の濃い記事を多く掲載している河北新報を通して、幅広い情報を人々に知ってもらいたいと思ったため。また企画を通して人と人との繋がりを作っていくことで、河北新報ファンを増やしたいと思ったから。
- 情報を伝えることで地域の活性化に貢献しているところに魅力を感じた。営業職を志望したのは、提案力を活かした仕事がしたいという気持ちがあったため。また、説明会で営業の仕事は稼ぎ頭として河北新報を支えているという話を聞き、自分の力を活かしつつ、やりがいをもって働けると考えた。

Q. 入社対策で力を入れたこと

(1) 筆記試験

- 普段から新聞は毎日読んでいたが、一般教養（とくに時事問題と漢字）の対策は2月下旬から問題集を使って始めた。とくに経済分野が苦手で、基礎から勉強した。作文は何度も練習して、友達や先生に見てもらった。
- 漢字がどうしても苦手だったため、ニュースで点を稼ごうとニュース検定のテキストをしたり、1月くらいからの記事をすべて読み直したりした。作文は大学の作文講座で記者の方に見てもらえる機会があったので、そこで添削してもらったものを土台にした。

- 普段から全国紙を読んでいた。試験前3カ月ほどは図書館に通って河北新報を読んだほか、オンライン版で社説を中心に過去の記事にも目を通した。特に東日本大震災の被害や現状については丁寧に読み込んだ。他に、時事問題がまとまった就活対策用の本を2回ほど読み、広い分野の基礎知識を頭に入れた。作文は特に練習していないが、書くネタをいくつか用意しておいた。
- 新聞を読むことで時事ニュースを収集。そのほか過去問を解いて、どのような問題が出るのかイメージトレーニングした。作文は特に練習しなかったが、はじめに結論までの一連の流れを考えてから書くようにしていた。
- 河北新報の記事に普段から目を通すことが一番の筆記試験対策になった。作文は大学のキャリアセンターで、毎日のように納得がいくまで添削を受けた。塾講師のアルバイトも役に立った。
- 時事問題は公務員試験用の参考書を読んだ。

(2) 企業研究

- 新聞は毎日読んだ。そのほか、4名の先輩社員の方にそれぞれ個人的に話を伺った。就活時は北海道に住んでいたので説明会などにはあまり参加できなかった分、個人面談でより深い話が聞けたように思う。
- インターンに参加したことで会社について聞いたのが大きかったと思う。他の新聞社についても調べる中で、河北の色みみたいなものに気づいていくのが面白かった。
- 説明会解禁直前の2月に「記者と駆けるインターン」に参加した。そこで知り合った社員の方に後日改めて、仕事の詳細や日々の生活などについて直接お話を聞いた。図書館で他紙と河北新報を読み比べ、特徴をつかんだ。
- 会社説明会には必ず参加するようにした。HPや採用ページからはわからない雰囲気や追加情報を得るためにも、直接話を聞きに行くことは大事だと思う。
- ネットで補えない情報は、実際に新聞社で働いている人や、周りの大人に聞くようにした。河北新報社は地方紙であることが一番の強みだと感じたため、全国紙と比較したりもした。
- 会社説明会の資料にしっかり目を通すことと、何より新聞を読むことが大事だと思う。河北新報が主催または共催しているイベントについても詳しく調べるべき。

(3) 面接

- 大学のキャリアセンターなどで開かれる模擬面接にはできるだけ参加した。文章を暗記するのではなく、伝えたいことの要点だけをおさえて落ち着いて話せるようにした。他社の面接なども含め、回を重ねるごとに自分のペースが作れるようになった。

- 正直あまりうまくいった気がしないが、今の等身大の自分を見せようと割り切っていた。面接前は毎回緊張したが、友達と電話してリラックスしていた。
- 本番形式の面接練習はほとんどしていなかった。よく聞かれる「新聞というメディアの今後」「東北が抱える課題」といった話題については、自分の言葉で話せるよう普段から考えたり口に出して話したりするようにしていた。予想外の質問もあったが、思うことを素直に話すように心掛けた。
- これまで受けた中で、河北新報の面接はいろいろな角度からの質問が多かったと印象に残っている。あらかじめ考えていたことではなく、自分そのものを伝えるように意識した。もちろん考えておくことも大事だが、あくまでもモチベーションを上げるためや気持ちを落ち着かせるための道具の一つ。
- 原稿などは敢えて作らず、自分の言葉で素直に伝えるようにした。だらだら話すのではなく、言いたいことを最初に簡潔に述べ、その後に理由などを付け加えるように心がけた。
- 新聞を読む際に、ただ情報を頭に入れるのではなく“考えて”読むことを意識した。面接では、そこで“考えたこと”を自分の意見として面接官に伝えることができました。

Q. 入社を決めた理由

- 全国の新聞社を中心に就活を進めていたが、その中でも東北、とくに地元の宮城には深い思い入れがあったから。地方紙としては転勤の幅も広く、自分のキャリアアップにつながると思った。
- 就活を進めていく中で、全国紙よりも地方紙にという思いが強くなり、その中でも一番思い入れがあった河北新報社に入ることを決めた。
- インターンや面接で社員の方々・他の就活生と過ごす際に居心地がよく、直感的に自分に合っている場所だと感じたから。記者になることには正直不安もあったが、最終的には自分の足で現場を訪れる事ができ、東北での課題意識を議論できる雰囲気と「楽しそう」という気持ちが不安を上回り、覚悟を決めた。
- 内々定の電話をいただいた際に、やはり自分のやりたいことができるのは河北新報しかないと感じたから。東北に根差した新聞社として、東北に貢献したいと思った。
- 採用過程を通して、どの会社よりも人間性を一番に見てくれていると感じたため。説明会から最終面接まで不安に感じる事が1つも無かった。また東北に根ざしている企業であることや、社員全員の熱い思いを感じ、私もその一員として働きたいと思ったから。
- もともと志望度が高く、内定が出たら入社したいと考えていた。面接などの選考を通じて、学生に対してきちんと向き合ってくれる会社だと感じ、さらにその思いを強くした。

Q.入社したらどんな仕事をやってみたいか

- 被災地の声を発信し、復興について議論する場を作りたい。大学のフィールドワークで現場の声施策に反映されていない現状を見てきたため。いずれは故郷の石巻に関わりたいが、とりあえずは自分の成長のためにあらゆる地域・分野で取材をしてみたい。
- 編集部門だが、営業的な面も含めて、常にこれからの報道の在り方について考え続けるようにしていきたい。絶えず新しいことを吸収していける記者になりたい。
- 大学で地球科学を専攻していたことを生かし、防災報道として研究者と読者の間をつなげる解説記事や、読者が避難や災害への備えなど実際の行動を起こす、一步踏み出すきっかけになる記事を書けるようになりたい。また、いつか楽天イーグルスを担当してみたい。
- やはり一番は震災報道だが、被災地の声を届けるだけではなく、震災を経験した東北から、今後の日本全体の防災や災害に関する情報発信に役立つ報道をしていきたい。また、学生時代に地元企業の魅力を発信するWEBマガジンに携わっていたこともあり、継続して東北の企業の魅力を追ってみたい。
- 営業の仕事は多岐に渡るため、選り好みせず、どんな仕事にも積極的にチャレンジしてみたい。自分自身が河北新報社の社員の方と関わる中で多大な影響を受けたので、いつか学生と関わられるような仕事をしてみたい。
- 広告営業で、クライアントの企業にとっても読者にとっても、会社にとっても有益な仕事ができればと思う。

Q.就活生へのメッセージ

- 私は「心に2割の余裕を」をモットーに就活しました。ハードスケジュールや周りの就活状況への焦りから、自分を追い詰めてしまうこともあるかもしれませんが、何もいいことはありません。面接や筆記試験で本領を発揮するためにも、息抜きや余裕を持った準備が、実はとっても重要です。
- 私自身の就活は迷いと不安ばかりだったので、内定の電話をいただいた時には安心してしばらく号泣してしまいました。就活となるといろいろなことを言う人がいますが、最後は自分の気持ちに正直に決めていってほしいです。
- 私は自分を表現する事に苦手意識があったので、就活では自分の中にあるものをいかに外に出していくかということに苦労しました。自分のことを見つめ直す作業はとても根気がいり、就活対策本やサイトなどの膨大な情報に惑わされそうになることもありますが、結局は等身大の自分のまま、素直に向かっていくことが一番自分のためになると思います。さまざまな会社の人と深く話ができる、就活という貴重な機会をぜひ楽しんでください。

- 必ずしも希望の職業や会社に決まるとは限らないが、絶対にやりたいことや誰のために何をしたいかなどいろいろ考えた上で、譲れないものを明確にしておいた方が就活しやすいと思う。精神的に辛い時や悩むことも多々あると思うが、妥協した分は後になって後悔すると思うので、納得いくまで考えて、悩むことも大事だと思う。適度に息抜きしながら、ポジティブに頑張ってください！
- 就活は孤独でつらい戦いに思われがちです。初めての経験でわからないことや大変なことも多いですし、悔しい思いをすることもあると思います。しかしその一方で、自分が何をやりたいのかをじっくり考えることが出来るいい機会になります。納得がいく就活が出来るよう、頑張ってください。応援しています！
- 一番の敵は緊張です。そして緊張に敵うものは自信です。自信を持つことは非常に難しいことですが、筆記試験の対策でも企業研究でも、努力のすべては自信に繋がります。努力を積み重ねて自信を持ち、緊張せずに選考に臨んで欲しいと思います。